



コスモスひろば

発行 茂原市民生委員児童委員協議会

2018. 10
委員向け 第12号

《編集》

広報研修対策問題研究部会

教育現場から見た

子どもたちを取り巻く問題

茂原市教育委員会教育長 内田 達也



茂原市マスコットキャラクター
モバリん

全国的に問題となつてい
るいじめあるいは児童虐待
や子どもの貧困等は、かつ
ての校内暴力などと違い表
面化しにくいのが特徴であ
り、市内の小中学校にもそ
れらの問題が潜んでいる現
状があります。中でも不登
校は市内の多くの学校が抱
える大きな課題です。

いじめについては、平成
二十九年度は冷やかしやか
らかい等を含めると市内で
四百件近くが報告されてい
ますが、そのほとんどが解
決の方向に向かつており、
いじめによる重大事態は発
生しておりません。しかし、
長期欠席者のうち病気を等
除くいわゆる不登校が小中
学生を合わせると百名を超
えています。学校の先生方

の家庭訪問や教育相談のほ
いは子どもの貧困等は複
か教育委員会としても市内
雑な要因が絡み合ってお
二か所への適応指導教室
り、子どもたちの心の内面
(フレンドルーム)の設置
や家庭内で引き起こされ
やスクールカウンセラー及
るため表面化しにくく、学
び心の教室相談員の配置等
校だけでは十分に対処し
を行っておりませんが、大
幅きれません。地域や家庭
な減少には至っておりませ
根差した活動をなされて
ん。この不登校や虐待ある
いる民生児童委員の皆様

子育て支援の現状と課題

児童対策問題研究部会

部会長 平井きよみ



近年、社会は大きく変化
不登校、引きこもり、自殺
しています。地域社会や家
族の姿が多様化し、複雑化
して来ています。茂原市も
例外ではなく、

子どもや子育て家庭をめ
加し、私たち主任児童委員
ぐっては、虐待、連れ去り等
もこの様な問題に直面し
の犯罪被害、貧困、いじめ、
ている状況です。中でも、

と学校との連携がそれら
の問題解決の一つの鍵に
なるものと思われます。
今後とも民生委員児童
委員協議会の皆様のご支
援ご協力を賜りますよう
よろしくお願い申し上げ
ます。

主任児童委員や地域住民
をはじめ、学校や自治会、
子ども会、ボランティア団
体等と連携協力し、子育て
支援や見守り、健全育成活
動などに積極的に取り組
む必要があると思ひます。
「地域の子どもは地域で
育てよう」と地域の一人ひ
とりが、ほんの少し気に留
めてくださることを念願
します。

子育てしやすい街・茂原を めざして田中市長は語る

近年、急速に進む少子高齢化の中、私たちの日々の活動の多くは高齢者に向けられがちです。しかし子どもをめぐる社会環境に目を向けると、家庭の状況は変化し、待機児童の解消、保育料の負担軽減、認定こども園の整備等の課題もあります。じわじわの子育て支援の課題について、田中市長よりお話を聞きました。

(司会・丸岡)

本日は市長には大変お忙しい中、座談会にご出席いただきましてありがとうございます。

それではまず初めに、茂原市民生委員児童委員協議会の田中会長から一言、ご挨拶させていただきます。

(田中会長)

本日はこのような時間をお取りいただきありがとうございます。市の子育て支援について市長から

聞いています。司会は私、丸岡です。

茂原市では、現在さまざまな課題を抱えており、とりわけ子育て支援の場は、広範囲にわたって課題があるかと思いますが、子どもからいくつか質問を用意していますので、市長の考えをお聞きしたいと思います。

待機児童は

解消されるのか

(榊原)

茂原市には現在、待機児童がどのくらいいるのでしょうか。また、どのような事業に取り組みながら待機児童を解決しているのか。

待機児童、茂原市では

大幅に減少

(田中市長)

本年四月一日時点での、市内の待機児童は十七人で、昨年度の七十人から大幅に減少しました。昨年度は待機児童対策として、アツプル幼稚園の認定こども園への移行支援や、新治保育所の閉所に伴う保育士配置の見直し等を行い、待機児童解消に努めました。

今後、保育士の確保を図るなど、引き続き待機児童の解消に取り組んでまいります。

また、核家族化が進行している現代で、親子二世代で同居をしている家庭が少なく、夫婦の片方が市外から嫁いできたような方は近隣に父兄がいないことから、産前産後期間の悩みを相談する場所がありませんでした。そのような場合、市内二か所にある産科に直接電話を掛けたり、あるいは市の保健センターの窓口相談していただく。産科に直接相談する

と産科での業務を滞らせしてしまうことにつながります。病院側に負担をかけないよう、行政側として対応できないかと考えて、保健センター内に産前産後の親御さんの相談機関を設け、フィードバックし、保健師を含めて対応しているところがあります。

産前産後サポート

センター拡充

(田中市長)

昨年度、事業をさらに拡大し、産前産後だけでなく、幼児教育に困っている親の相談も受けるというところで、産前産後サポートセンターの拡充を図りました。

この事業は、茂原市独自で始めたものです。千葉県内では他市町村が同様に取り組み始めたようですが、本市が先行して取り組んでいます。

親御さんの負担軽減だけでなく、産科や小児科の医療事務の負担軽減に役立つものと自負しています。特に、本市のような産科小児科の少ない地域にとつては、適当な事業ではないかと思っております。

保育料の負担と

保育士の確保は

(井上)

茂原市での保育料の負担軽減や保育士の確保について、どのように考えているかをお聞きします。

多子世帯に

保育料を軽減

(田中市長)

保育料につきましては、本市独自の軽減策といったしまして、多子世帯に対する保育料の軽減を行っています。保育料の軽減により、子育て世帯の経済的負

担の軽減を図ることは、たいへん重要なことであると感じています。今後につきましては、来年十月から幼児保育・教育の無償化が実施される見込みですので、その状況等をふまえて検討を進めてまいります。

保育士の確保は困難

(田中市長)

保育士の確保につきましては、全国的に保育士が不足しており、本市でも公立保育所、民間保育所のいずれも、保育士の確保には苦労しているところです。民間保育所に対しましては、昨年十二月から「茂原市民間保育士処遇改善事業」により、保育士に支給される給与を補助すること、保育士確保の一助となるよう支援してまいります。公立保育所につきま

しては、平成三十一年度の新規採用職員として、五人程

度の募集を行っています。保育士不足は深刻

(井上)

保育士は、今は充足していないということですか。



▲緊張した空気が流れる＝市長応接室にて

(田中市長)

市区町村での保育士の取り合いが激しいですね。都内や都市部で給与を釣り上げられると、保育士はみなそちらへ行ってしまう。地方で保育士が足りなくなる。その繰り返しです。これをどこかで止めて

くれないと、保育士の確保はなかなか難しいと思います。今はどこでも、保育士は特に人手不足です。

保育士の処遇格差

(榎原)

保育士は、民間と公立の格差が大きいといわれているようですが、公立のほうが待遇面はよいのでしょうか。

(中村課長)

待機児童がまだいると申し上げましたが、今は小さい子どもが多く、乳幼児が増えるとともに保育士が必要になります。しかし、それに見合うだけの職員が確保できない状況です。一般的には、民間に比べると公立の方が処遇は良いと思われま

(丸岡)

近隣市町村で保育士の奪い合いをし、処遇面で

もまだ十分ではないということですね。

認定こども園の

現状は厳しい

(平田)

私は認定こども園が待機児童対策に効果があるということ、茂原市の現状を詳しく伺いたく思います。

(田中市長)

アップル幼稚園を認定こども園に移行したことで、四十二名の保育枠を確保でき、待機児童解消に対しても効果が出ております。また、今年の二月から四月にかけて、市の南部と北部に認定こども園を開園するため、運営事業者の募集を行いました。残念ながら応募はありませんでした。

運営事業者の募集については、都市部と同等の要件を求められても対応しきれない現状があり、苦慮してい

ます。

本市としては、認定こども園の整備と拡充は保育ニーズの多様化や子どもに質の良い教育と保育を提供できるものと考えています。

認定こども園に

事業参加が少ない

(榊原)

認定こども園に、民間事業者が参入しづらい要件があるのでしょいか。

(中村課長)

幼稚園教諭の免許を取得している方が、さらに保育士の資格を取得する必要があることも条件の一つです。また、施設の整備も必要になる場合があります。そのため、多くの幼稚園・保育園では様子を見ているという現状かと思えます。

認定こども園と

保育園の違いは

(丸岡)

認定こども園は他の幼稚園や保育園とはどのような点で異なるのでしょうか。

(中村課長)

認定こども園が幼稚園や保育所と異なるところは、保護者の就労状況が変わっても、同じ園に通い続けられるというメリットがあるところです。

子どもを産み育てる

街の魅力は

(井上)

茂原市に転居してきてまで子どもを産みたいと思わせる何かがあると思います。茂原市は他の市町村とは違いますよとアピールできるポイントが欲しいところですね。

(丸岡)

柏市や流山市などは、子育てしやすいまちとして人口増加の傾向にあり

ますが、実際に行ってみると、ちよつと違うかな、と思う面もあります。

(田中市長)

茂原市の場合、統計を見てもわかるように、人口が増加する様子はありません。



▼市長の言葉を聞き漏らすまいと耳を傾ける
 市長応接室にて

国が地方創生といっても少子高齢化は間違いなく止まりません。核家族現象があり、基本的に、親

子世代が同居しづらい社会構造になっています。昔は三世代が当たり前でした、今はそういう時代ではない、みんな外でなんとか自分たちの稼ぎを確保して、その間子どもはどこかに預けて、という状態です。家族が増えるという概念はどこかで止まってしまっています。

産院の減少は深刻
 高齢化と医療事故

(田中市長)

もつと深刻なのは、例えば茂原市でも最盛期に十カ所ほどあった産科が現在は二カ所しかないことで、これは危機的状況です。辞めることを考えている医者も少なくありません。なぜかという

と、医者の方々も高齢になつてきており、医療事故の発生の恐れを想定すると、辞めたい、限界だ

という結論になつてしまふからです。

国の医療過疎対策の不備が問題

(田中市長)

国や県にも、地方の医療過疎対策に積極的に取り組もうという姿勢が見えませんが、このような状態では、子どもを産む環境など整いません。お産をする場所がないからです。この問題は、行政だけで取り組むにはあまりに深刻です。

(榊原)

少子高齢化の話となると必ず産科の問題に行きつきますが、これは行政の問題だけではありませんよ。

産院が少なくなった

原因

(田中市長)

産科がなぜこれだけ減つてしまったのか、その

原因は訴訟問題にもある
と思います。

小児科や産科が扱うの
は〇歳から一歳児の問題
です。何か問題が起これ
ば訴訟、という話になり
ますが、子どもはしゃべ
りませんか、専門家でな
いとわかりません。医療
機関は訴えられると機能
不全になってしまいます。
そのような訴訟問題
が増えてきているがため
に、産科医はドロップア
ウトしてしまいます。婦
人科は産科を兼務しなく
なります。日本全国でそ
のような問題が増えてき
ています。

いま、お産に携わろう
とすると、産婆（助産師）
さんだけではできないと
いうことです。一般的に
産科の先生一人に対し助
産師が十人ほど助手につ
きます。昔のように、一人
の先生が麻酔からなにか
らすべて担当するという

ことが現在はなく、誰が
何を担当するかがはつき
りと色分けされています。
そのため、スタッフを
揃えるのが大変です。

よく長生病院に産科を
と言われますが、スタッ
フを揃えるのが困難なた
め難しいのです。これは
非常に大きな問題です。

非常に大きな問題です。

トラブルの際の

解決策は

(井上)

茂原市内の産科で分娩



▲ 茂原の今後を担う
遅い表情=市長
応接室にて

中にトラブルがあつた際
の救急搬送先は、東メデ
イカルセンターになるの
でしょうか

(田中市長)

そのようなリスクは作
永産婦人科や育生医院で
も抱えている問題です。
亀田総合病院などとも連
携しているため、日中は
問題ないかと思えます
が、夜が大変です。夜はド
クターヘリが飛びません
から。ドクターヘリに対
する夜間誘導ができない
ため、そこに医者が乗っ
て飛ぶことはとんでもな
いリスクです。

▲中村課長の説明に頷く
田中市長 市長応接室
にて

民生委員児童委員 に期待するもの

(榊原)

市長が民生委員に期待
するものとは何でしょう
か。

(田中市長)

現代の子どもたちは打
たれ弱いです。いじめの
問題にもつながってしま
いますが、友達の輪が広
がっていかないような、
ゲームの中の世界で生き
ているのかな、というこ
ろがあります。このあ
たりの問題を打破しない
といけないのではないか

と考えています。

民生委員の皆さんに
は、児童委員としても、子
どもたちへのフォロー面
でのお力添えもいただけ
ればと思っております。

(丸岡)

それでは、座談会はこ
こまでとさせていただきます。
お話が盛り上がっ
てよかったですと思います。
本日は本当にありがと
うございました。

(平成三十年七月三日

午後一時三十分から

茂原市役所三階 市長

応接室にて)

座談会参加者

【行政】

田中市長

関屋福祉部次長

(社会福祉課長)

中村子育て支援課長

齊藤子育て支援課長補佐

(子ども政策係長)

【民児協】

田中会長

丸岡広報部会長

榊原広報副部会長

井上広報副部会長

平田広報部会員

茂原市初の子ども食堂

子どもや地域みんなが集う居場所をめざして

茂原市で初めて設立した、いわゆる子ども食堂である「すまいるステーション」の河野健市代表へ、平成三十年五月二十日にインタビューした内容です。

設立のきっかけ

先に、厚労省が公表した「貧困を示す「相対的貧困率」は、十七歳以下の子どもでは七人に一人の貧困」という現状が示されました。子どもの教育にも大きな影響を与えています。大

終学歴が中学校卒業になつてしまう子どもたちも多く、貧困の連鎖が強く懸念されています。

私たちは、昨年十一月に心ある有志が集い、市内にはこの活動がない現状があるのでも「子ども食堂」の議論をした中で、子どもたち学入学者では格差が顕著で、全体では約五十七%ですが、ひとり親家庭は約二十四%、生活保護世帯の子の大学等進学率は約十九%でしかありません。しかも、進学しても授業料が払えない、不登校などの理由から、高校を中退し、最



▲本日のメニューはチキンカレー

に食事を提供し、勉学の場や楽しいイベントを通して子どもたちの居場所を、との思いで設立しました。いまは、親や地域の人々の交流のネットワーキングをめざしています。

日は調理スタッフが少なくて自分で作る喜びを知つたりと忙しくなりますので、サテ欲しい。またリトミックやポーターやボランティアの方でもつと参加してほしいです。

まだ、回数も少なく、参加者も少ないので、もっと多くの人にすまいるステーションを知っていただければ、茂原市社会福祉協議会や長生ひなたからの提供を受けています。肉などの提供のな



▼みんなで音楽を楽しんでいます

今年三月にスタートして
今回で三回目ですが、運営上の悩み

具体的な活動内容

運営委員は現在、七名ですが、自分の仕事を持ちながらこのボランティア活動に参加している方がほとんどで、仕事の日程により欠席される方もいます。開催の紙飛行機や折り紙を通して

基本は、子どもを中心に、子どもたちの居場所作りをめざしています。そのために食事を通して食べる楽しみを、イベント

食材の調達方法

お米や野菜などのほとんどの食材は農家の方から無料で届けていただけるので、とても助かっています。それ以外の調味料などは、茂原市社会福祉協議会や長生ひなたからの提供を受けています。肉などの提供のな

これからの展望について

は、自由研究の支援もしたいと考えています。

すまいるステーション

開催日：毎月第3日曜日

時間：12:00~15:00

(ランチ受付は13:30まで)

場所：東郷福祉センター

お問合せ先：090-9133-6738

子育て支援の現状と課題

子育て支援課

子育て家庭相談室長 佐久間 栄一

子育て相談室では、子育てとあわせ具体的な支援もて相談や児童虐待に関する 積極的に対応しています。相談対応状況を見ますと

平成二十九年度の相談件数は二、四四一件、うち虐待相談は九九八件となっており、年々増加傾向にあります。

ただ、虐待そのものが増えていくという訳ではなく、相談者や情報提供者に対し身近な相談窓口として

の電話相談で終了する場合もありますが、多くは継続的な支援が必要となり、具体的には関係機関からの情報収集、家庭訪問や面談による助言・指導のほか、病院や学校、発達支援施設などの同行支援も行っています。

民生委員のひびく

とある新任民生委員が活動の中で感じたこと。皆さんはどう思いますか？

皆さん、私のひとりごとにしばらくお付き合いください。

翌日、私の電話番号、名前、訪問の趣旨を書きポストへ投函しました。しかし何の連絡もない。もう一度繰り返し、暫く待つてみたが連絡がない。「どうしたら良いの？」と自問する。

来られた方に「〇〇さん、ですか？」と聞くと、「ハイ」との返事。良かった。ホッとしました。

ただ、このように支援に繋がるケースばかりではなく、特に虐待に関する対応については関わりを拒絶する保護者もいます。その場合は虐待の危険性を疑い、児童の安否確認や家庭環境などの状況把握に努め、状況によっては児童相談所に援助を求め対応しています。

ある日、突然、女性が訪ねて来られ「あなたが民生委員に推薦されました、よろしくお願い致しますね」って。

この、腹立たしさ。心の奥底に必死に押さえ込んでいた上からの視線。頭がもたげてきそう。

しかし、すべてに同感はできません。「連絡する時間くらいあるでしょう」

最後に、児童虐待の支援には民生委員児童委員の皆さんをはじめ、関係機関の連携、協力が不可欠です。今後ともご理解とご協力を願います。

民生委員ってどんな活動をするの？

もう一度、呼び鈴を押す。また出て来ない。

お正月が過ぎて、定例会の日。「もう渡せなかつたら市に返そう」そう思い、朝早く出かけた。

皆さんはどう思いますか？

十二月になり、委嘱式。そして歳末配布。「こんな制度があるんだ」

六時半、ちょうど出て

事業委員会だより

事業委員長 丸 君夫

咲き誇る美しい桜や色づく紅葉を見ますと、何となく出かけてみようと思いませんか？

普段なかなかお目にかかれぬ民生委員が一同に会し、日帰り旅行、一泊

旅行を行うことは委員達の親睦を深める場、活動に対しての意見交換の場として欠かすことのできない行事だと思っております。しかし、昨今の参加人数の減少に伴い、日程や場所について検討する時期に来ていると思っております。

事業委員会の開催は年数回です。視察研修や親睦旅行の日程・行先につきましても、各民児協の活動や過去の行き先と重

複しないかを考慮し委員相互の意見を経て決定しております。

春の研修旅行については、市のバスを借用しているため時間制約がありますが、名所見学、日本の伝統芸能の見学などまだまだ考える余地はあるので、参加者が増加する方策を考えていきます。

秋の親睦旅行については、懇親会等で委員同士の交流や諸先輩からの話を拝聴することができ、大変有意義な機会だと思っております。しかし、仕事を持ってたり介護者を抱えていたりして一泊旅行が

困難な委員が増えており、年々参加者が少なくなってきました。また、平成二十四年四月に発生した高速バスの事故を契機に貸切バスの運賃が見直され、以前より参加者の負担が増えています。

開催内容の見直しを含め検討する時期にきているように思えます。近年、各旅行会社のツアーも充実しているとのことなので、様々な情報を集め最良のアイデアをご提案できるように事務局と共に努力していきます。

今後は会長や理事会、各民児協委員に意見をいただきながら事業委員の使命を果たしていきたいと考えている次第であります。今後ともさらなるご理解ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集委員紹介

部 会長(東郷)丸岡 一人
副部長(東部)井上 昭子
副部長(中央)榊原 敏眞
部 会員(豊田)平田 春代
(北部)伊藤久美江
(五郷)船津 博
(西部)正林 康男
(鶴枝)宮崎 徹
(二宮)土屋 信子
(本納)熊田 静夫

編集後記

今年の夏も猛暑日が続きましたが、この12号をお手元にお届けする頃には、涼しくなっていることでしょう。本年度は、「子育て支援」という大きな目標を掲げました。その中で「市長との座談会」の時を持ち、誌面作りを頑張りました。忌憚のないご意見を賜りたく思います。(井上)

自立支援対策問題研究部会の活動

部会長 鈴木 勝博

私たち、自立支援対策問題研究部会では生活相談支援等在宅福祉活動に関する調査研究、支援を必要とする女性に関する調査研究を行っています。視察研修として、平成二十六年に福祉作業所「あゆみの家」千葉南部地域若者サポートステーションへ、平成二十八年度には特定非営利活動法人「スペースぴあ」に訪問しました。



▲保護司の活動について学ぶ=503 会議室にて